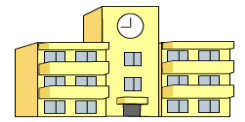


# TNB58だより



平成 28 年 8 月号

8月も終わりに近づきました。この40日余りの夏季休業日をどう過ごされたでしょうか？ 読書三昧、オリンピックの視聴・観戦、旅行等の家族サービス等々。教職員の皆様も、子どもたちと同じように夏季休業中にしかできないことをたくさんされたのではと思います。また同時に、教職員にとって欠かすことのできない指導力・授業力を向上させるための研修をする絶好の機会となったことでしょう。

各教科、道徳、特別活動、生徒指導、学級経営、学力向上、授業改善、アクティブラーニング等、学校として取り組まれたこと、個人的にテーマを決めて取り組まれた成果を子どもたちのために生かしてほしいと思います。うまくいかない場合もあるでしょうが、先ずは実践。そして、検証です。そこで、2学期を迎えるにあたり、今一度、授業について再確認をおこなしましょう。



## ① 授業のスタンダード化を！

今、盛んに叫ばれ、多くの学校で取り組まれている授業のスタンダード化について考えてみましょう。ねらいやまとめ、ふりかえりをしましょうといったこともスタンダード化の一つです。気をつけたいことは、教師側と子ども側の両面から捉えてスタンダード化を図ることです。学校訪問をさせて頂いて、若い先生方の授業を参観すると、教えてもらったことや教材研究したことを一生懸命に実践されている姿が見られます。頼もしく思う反面、「あれっ、学習規律はどうなっているのかな」、「ここは教師が喋らずに子どもに発言させてほしいな」、といったことを強く思う場面があります。こういうときに、このスタンダード化を通して授業の展開や教師の役割について、基本的なことを身につけてほしいと思います。



○学びのスタンダード——子どもの学び方の標準化

○教えるのスタンダード——教師の指導の標準化

子どもに学力をつけていくには、勉強は楽しい、もっとやりたいという実感を味わわせることが大切です。そのためには、授業改善をしていかなければなりません。勿論、教材研究や授業研究、児童・生徒理解、学級経営が土台となります。子どもを変えようと思うならば、先ず教師自らが変わらなければできません。今までの指導法や授業を振り返ってみたときに、果たして自信を持って子どもたちをわくわくさせる授業、楽しいと思わせる授業はできているでしょうか。教師の個性や考え方、指導の違いはあって当然ですが、ある程度の教えるの標準化は必要です。



## ② めあて、まとめ、ふりかえりのある授業を

特に大切にしてほしいことは、毎時間、今日学習すること、本時の課題「めあて」を子どもに意識させること、板書することです。「今日、この1時間で学ぶことは、〇〇です」と、子どもに言っているでしょうか。黒板に本時のめあてを書いているでしょうか。できれば子どもから「今日の学習のめあては、〇〇です」と出てくるのがベストです。学習に対する「構え」が、できているからです。決して難しい言葉で書く必要はありません。子どもが読んで（聞いて）理解できるめあてで十分です。めあてを明確にするかしないかで、子どもの取組は大きく変わってきます。

1時間で学習するめあてが明確になれば、当然のごとく最後のまとめは、めあてに対する答えとなってきます。これを「今日の学習で分かったことは？」「学んだことは？」と、子どもに問えば、子

どもは、しっかりとその答えを出すでしょう。それを教師が板書すれば、まとめとなるのです。勿論、これも子どもの言葉で書けばいいのです。学習後に子ども達がノートを見た時に、大切なこととして押さえることができ、知識として定着することに繋がります。つまり、しっかりと頭の中にインプットされたことになり、確実に学力がついていくのです。

ここで、めあて、まとめ、ふりかえりについて整理しておきましょう。

○めあての設定 → 学習活動の表記+目的と手だてを表記

(例)「自然学校新聞を作ろう」 → 学習活動だけの表記

「自然学校の様子を伝えるために、自然学校新聞を作ろう」 → 目的を追加

「自然学校の様子を伝えるために、写真やインタビューを入れて自然学校新聞を作ろう」 → 手だてを追加



○まとめの方法

①学習のまとめ、押さえて必ず全員が共有すること

②子どもの言葉でまとめる(書く)こと(教科書と同じまとめや教師の言葉でない)

③めあてとまとめは、問いと答えの関係(整合性を図ること)

○ふりかえりの書かせ方



①学習のふりかえりで、個によって違う内容(共有する必要なし)

②単なる感想でなく、本時の学びや次時での学びを書かせること

③連続した学びとなるような書き方をさせること

④初期は、型を使って書かせることも大切

(例)「今日の〇〇の学習から、△△であるということが分かった。次は、今日の学習を生かして□□についても学習したい。」



### ③ 3大心を生かした授業を!

子どもの3大心をご存じですか。子どもなら誰しも持っている本能、思い、心です。それは、**好奇心、競争心、冒険心**です。授業にこの「3大心」を組み入れることを意識してほしいと思います。

○好奇心:何だろう? どうなるのかな?

○競争心:人より先にやろう! 負けないぞ!

○冒険心:やってみたい! 挑戦したい!



といった、子どもの本能をくすぐるような授業です。2つめの競争心については、学習に勝ち負けを取り入れましようと言っているのではありませんので、誤解のないようにしてください。

### ④ 教え(過ぎ)ない、喋らない授業を!

「教え(過ぎ)ないでください」「しゃべらないでください」と、若い先生方に言っています。みなさん、必ず「えっ!」と驚かれます。少し極論めいたところではありますが、子ども達が活躍する授業を目指してほしいということなのです。

1時間の授業で、先生が喋ってばかり、しかも大きなキンキンするような声で話される授業を何度も観てきました。こうした授業を繰り返していると、子どもたちは5分もすると、ざわつき始め、落ち着きがなくなってきます。集中力が途切れ、次第に勉強が分からなくなってしまいます。学力がつかない状況になってしまいます。こんな状況は今すぐに改善し、子どもたちが活躍する授業、瞳輝く授業にしなければなりません。子どもに考えさせ、子どもに気づかせ、子どもに発見させ、子どもに発言させ、子ども自らが分かったと言う授業に。教師の話や説明、まとめなどをいかに少なくするかということがキーポイントなのです。

